

目録の現在と未来

平成20年度大学図書館職員短期研修 2008年10月8日(京都大学) 2008年11月11日(東京大学)

> 慶應義塾大学 メディアセンター本部 酒見 佳世





本日の話題



- ■目録の現在
- ■解決すべき課題
- ■そのための取り組み
- ■未来の図書館、未来の目録







■目録の現在、解決すべき課題



目録の現在



- •標準化
 - →目録原則、目録規則、 MARCフォーマット
- •機械化
 - →図書館システム、OPAC
- ・共有化・コピーカタロギング
 →書誌ユーティリティ
 NACSIS-CATやOCLC
- •集中処理•外部委託化

少なくとも基本的な部分に関して、目録業務の合理化はほぼ完了している



目録に関する様々なレポート: 2005~



•カリフォルニア大学の書誌サービスに関する報告書

The University of California Libraries, Bibliographic Services Task Force. Rethinking how we provide bibliographic services for the University of California. Final report. The University of Carlifornia, 2005.

http://libraries.universityofcalifornia.edu/sopag/BSTF/Final.pdf, [accessed 2008-10-01]

・カルホーンレポート

Calhoun, K. The changing nature of the catalog and its integration with other discovery tools. Final report. Library of Congress, 2006. http://www.loc.gov/catdir/calhoun-report-final.pdf, [accessed 2008-10-01]

•LCのワーキンググループ報告書

「書誌コントロールの将来に関するワーキング・グループ報告書」

Working Group on the Future of Bibliographic Control, Library of Congress. On the Record: Report of The Libraryof Congress Working Group on the Future of Bibliographic Control.

http://www.loc.gov/bibliographic-future/news/lcwg-ontherecord-jan08-final.pdf [accessed 2008-10-01].

変化が起きている。目録も変わらなくては。



「インターネットの普及」と「資料の電子化の進展」

- ・ウェブの進展
- ・検索エンジンの普及
- ・利用者の変化、目録離れ
- ・図書館で取り扱う電子資源の増大
- ・学術情報世界におけるカバー率の低下
- •OPACの機能改善の遅れ

この状況に対応し、投下した費用に十分な効果を生み出す





■解決のための取り組み

FRBR 目録規則

> OPAC MARC

電子資源の管理 書誌ユーティリティ …etc



目録の壁を越えるには



目録の壁: 紙・印刷メディアのための目録

従来の

- ・目録規則、MARC フォーマット
- ・図書館システム、OPAC
- ・書誌ユーティリティ NACSIS-CATやOCLC

これらをそれぞれ見直す必要がある

ところで、そもそも目録って何でしたっけ?



そもそも目録とは何だったのか?:FRBR



唯一の書誌的コントロールの理論的根拠

FRBR: Functional Requirement of Bibliographic Records (http://www.ifla.org/VII/s13/frbr/)

日本語版:

「書誌レコードの機能要件: IFLA書誌レコード機能要件研究グループ最終報告」(IFLA目録部会常任委員会承認)和中幹雄・古川肇・永田治樹訳 http://www.jla.or.jp/mokuroku/frbr_japanese.pdf http://www.ifla.org/VII/s13/frbr/frbr-jp.pdf



FRBRのポイント①



- ①目録を、利用者側の視点から見直した
 - ■利用者行動の4類型
 - ・実体の発見 (Find)
 - ・実体の識別 (Identify)
 - ・実体の選択 (Select)
 - ・実体の入手 (Obtain)
 - ■利用者の観点に基づく実体(関心の対象)
 - ①著作、表現形、体現形、個別資料、
 - ②個人と団体、
 - ③概念、場所、物、出来事

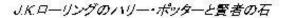


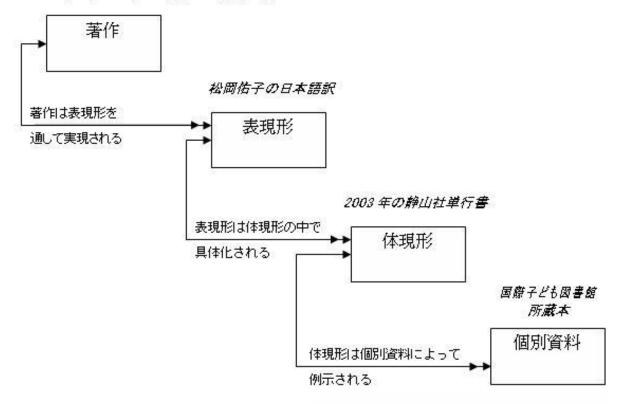
FRBRのポイント②



Design the Future

②資料をタイトルによってグループ化するモデルを明示した





※斜体は、各実体の例を示す。

出典:橋詰秋子. OCLCのFRBR化の取組み:xISBNサービスを中心に. カレントアウェアネス. 2008, (296), p.10-11. http://current.ndl.go.jp/ca1665

FRBRの現在



Find in a Library anytime

with always-there browser tools

Learn more and download

FRBRあくまでもモデルであるため、実際にうまく記述できるかはわからない。どのように具体化するのかはこれから。

Details

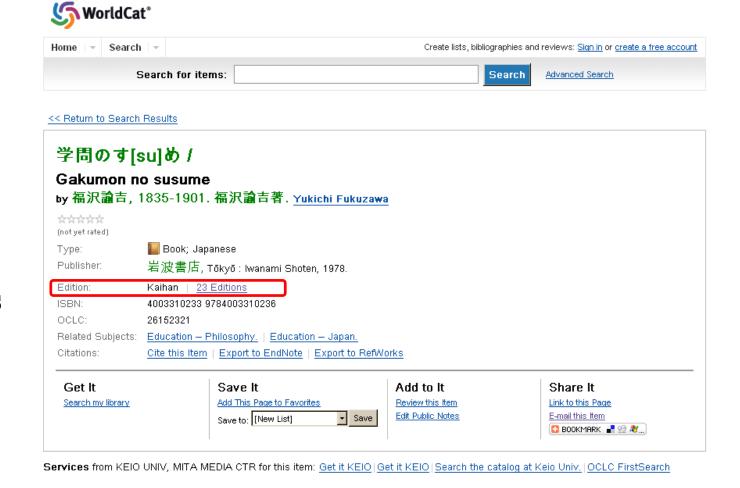
Libraries

Subjects

Enter Location Information:

OCLC
WorldCat.org

Editionに23Editions と表示されている



Go

Reviews

「学問のすすめ」の 様々な版が提示される



Home - Search	▼	Create lists, bibliographies and reviews: Sign in or create a free account		
Search for i	tems:	Se	earch	Advanced Search

<< Return to Item Details

Gakumon no susume*

Showing All Editions for * 学問のす[su]め /

Published Date (Newest First)

Displaying Editions 1 - 10 out of 24

First < Prev 1 2 3 Next > Last >>

学問のすすめ:自分の道を自分で切りひらくために/

Gakumon no susume : jibun no michi o jibun de kirihiraku tameni

by 福澤, 諭吉 (1835-1901) Yukichi Fukuzawa; Ryuichiro Misaki

📗 Book

Language: Japanese

Publisher: PHP 研究所, Tokyo: PHP kenkyujo, 2004.6

2. 学問のす〓め /

Gakumon no susume

by 福澤, 諭吉 (1835-1901) Yukichi Fukuzawa; Teruhiko Hinotani

📗 Book

Language: Japanese

Publisher: 三笠書房 , Tokyo : Mikasa shobo , 2001.3

3. 福澤 諭吉 「學問 のす、め」:初篇の復刻本:解説・現代文訳 /

Fukuzawa Yukichi "Gakumon no susume" : shohen no fukkokubon : kaisetsu gendaibun yaku

by 福澤諭吉, 1835-1901. Yukichi Fukuzawa; Tokujirō Obata; Masafumi Tomita; Fukuzawa Kyūtei Hozonkai.

🔲 Book

Language: Japanese

Publisher: 福澤旧邸保存会, Nakatsu-shi : Fukuzawa Kyūtei Hozonkai, [n.d.]

學問のすすめ:全/

Gakumon no susume : zen

by 福澤諭吉, 1835-1901. Yukichi Fukuzawa

Book

Language: Japanese

Publisher: 日本近代文学館, Tōkyō : Nihon Kindai Bungakkan, 1995

Copyright © 2006 Keio University

次の目録規則: RDA



- ・AACR3からRDAに名称変更
- •Resource Description and Accessの略
- •2009年に発表予定
- •FRBRに忠実な規則
- 特定のレコード構造に縛られず、 様々なコミュニティと共有しやすい
- ・より柔軟で拡張性が高い



RDAの章立て



Recording Attributes (4 sections)

- 1. Manifestation and item
- 2. Work and expression
- 3. Person, family, and corporate body
- 4. Concept, object, event, place

Recording Relationships (6 sections)

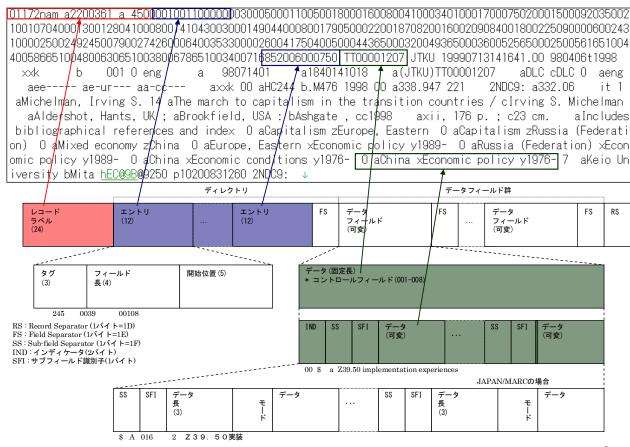
- 5: Primary relationships between works, expressions, manifestations, and items
- 6. Relationships to persons, families, and corporate bodies associated with a resource
- 7. Subject relationships
- 8. Between works, expressions, manifestations, and items
- 9. Between persons, families, and corporate bodies
- 10. Between concepts, objects, events, and places



次のMARC?



- 目録規則が変われば、それをベースにしているMARCの項目も 変わる※RDA/MARC Working GroupというWGができている
- ・MARCのレコード構造(ISO2709)の次は?→XML MARC XML, MODS
 - (1) 記述の変換機能
 - (2) 記述構文(スキーマ) の継承機能



次のOPACは?



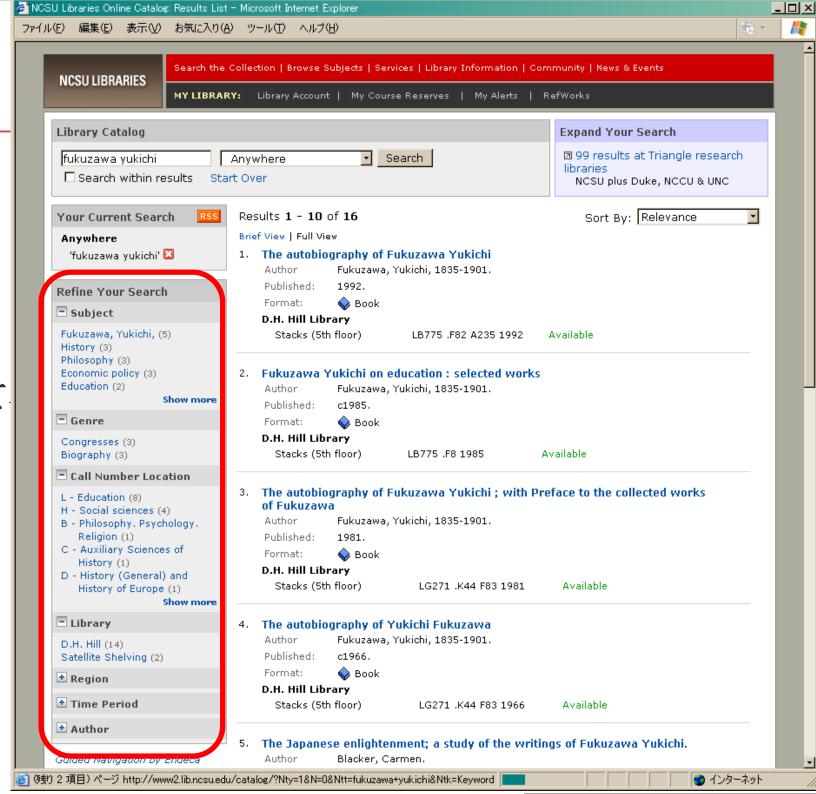
■新しいOPAC

- •ノースカロライナ州立大学(NCSU): Endeca社
- ・ワシントン大学: WorldCat Localの試行版
- WorldCat.org



実際の画面

まずはキーワードを 入力させ、その後、 検索結果の横に ファセットを表示して 更なる検索を ナビゲートする。



今までとは違う、データの価値



コード類

- ・言語コード
- ・出版地コード
- •出版年
- ・資料形態コード
- •特定資料表示

件名(分類)

- •人名、団体名
- •時間
- •場所

著者名 →典拠コントロール



もはや目録とは呼べない何か



Coyleによる、目録のゴール

- 新たな目録は書誌レコードだけで構成されない
- ・利用者の作業量を減らす
- ・お薦めを提示できる
- ・双方向性を持つ
- ・利用者が参加できる
- ・1種類以上のデータを含む

Karen Coyle. The library catalog: some possible futures. Journal of Academic Librarianship. 2007, vol. 33, no. 3, p. 414-416.



目録情報を軸にして世界を広げる



KEIO 150
Design the Future

目次情報、表紙画像、評価、コメント、タグ付け様々な目録情報に付加価値をつけていく。



Google ブック検索

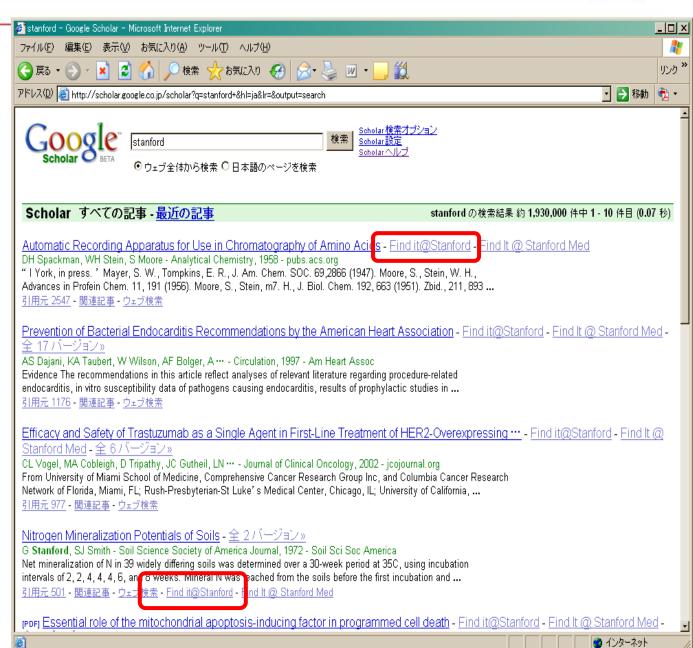
・図書館の所蔵情報

図書館の所蔵情報を日のあたる場所へ



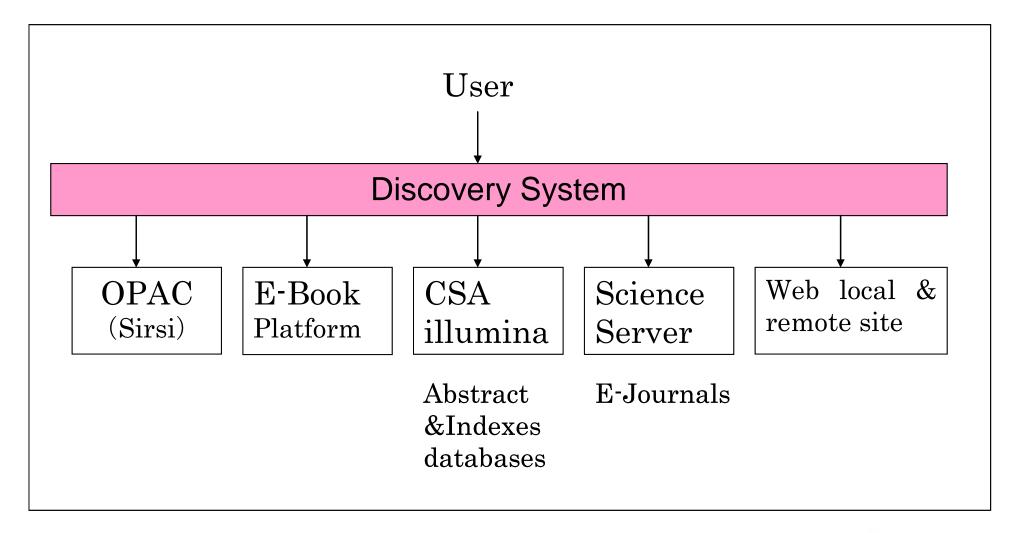
Google Scholar

- ・電子ジャーナルへのリンク
- ・図書の所蔵情報



Discovery System







Discovery Systemのインターフェースの機能要件



ユーザーインタフェースの要件は全部で12項目

ローマ字以外の文字への対応 ファセットナビゲーション 検索結果のクラスタリング 書誌レコードのFRBR化 複数のタクソノミー、語彙 スペルミスの修正、類義語、曖昧語 検索結果が0件の場合のナビゲーション 検索結果の保存と設定のカスタマイズ 検索履歴などに基づく検索のガイドと改善 RefWorksへのダイレクトエクスポート



様々な探索ルートと目録、図書館



図書館は、ルート全てに関るが、その一部にすぎない

利用者の情報資源発見の経路は様々

図書館のポータルやOPACが出発点となることはむしろ少ない

例えばCiNiiやGoogle Scholarから検索をはじめ、リンクリゾルバーを経由して図書館が所蔵する論文をダウンロードする

様々なルートの中で、図書館の資料に限らず、利用者を目指す資料に導くために、書誌データは必要なツール



図書館が提供する電子資源



外部データ

抄録・索引データベース電子ジャーナル電子ブック書誌データベース

内部データ

書誌データベース 機関リポジトリ 各種デジタルデータ

各資料へのアクセス経路の確保が重要 各アクセス経路に書誌データは欠かせない



図書館における電子資源の現在



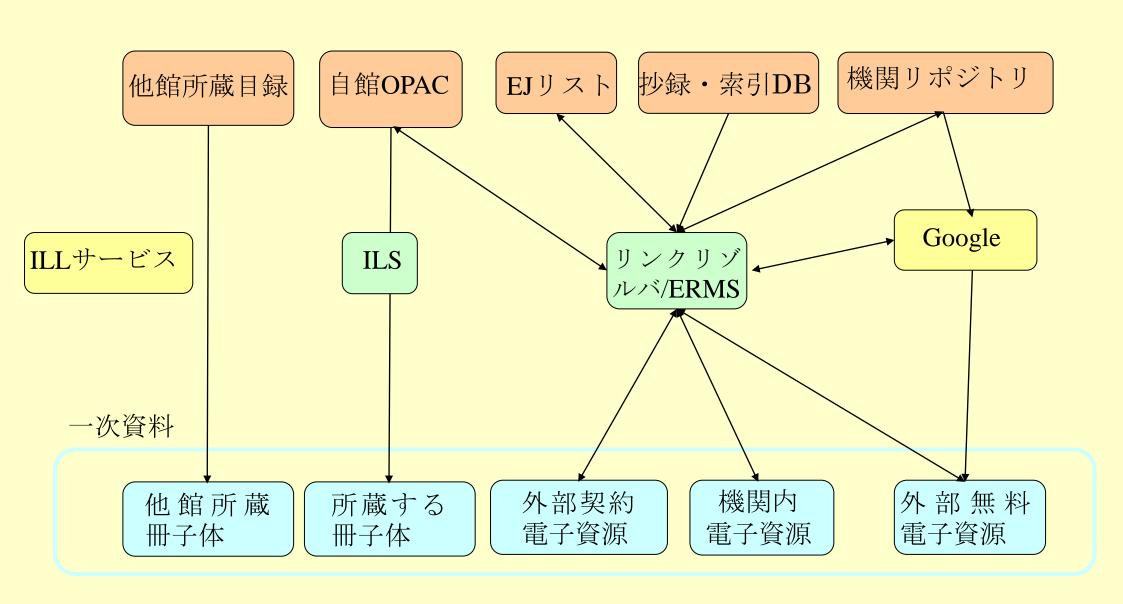
図書費+図書資料費総額に占める電子資源の割合は37% 2004年度は20%だったので、この4年で約2倍

電子ジャーナルのタイトル数も22,197から29,055へと増加電子ブック1,967タイトルから5,968へ増加

これらの目録データは? 電子ジャーナルについては、SFXから提供されるMARC 電子ブックについては、版元から提供されるMARC



図書館の電子資源関連図



電子資源管理のためのシステム

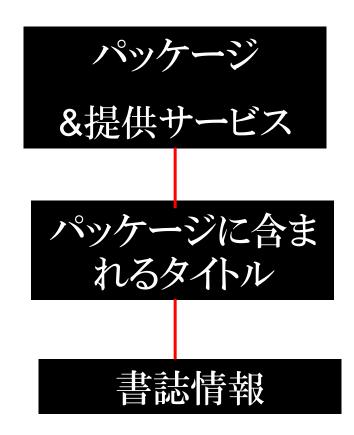


- ・リンクリゾルバ
 - →SFX、360 LINK など
- ・電子情報資源管理システム(ERMS)
 - →Verde、360 Resource Manager など



リンクリゾルバのデータ構造

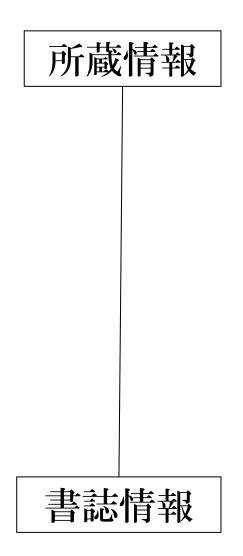


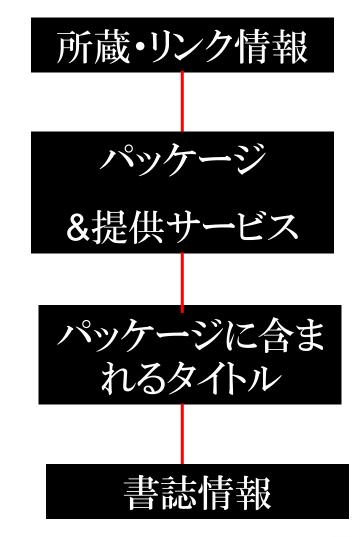




書誌と所蔵のあいだに









図書館による電子ジャーナル提供:機関リポジトリ



慶應の機関リポジトリのメタデータ

- ・MODSの採用
- ・目録担当者によるメタデータの作成論文レベルのデータ電子資源の記述カナ・ローマ字
- 著者のコントロール



次の書誌ユーティリティ?



- WorldCat Local
- ・電子資源の所蔵情報とILL
- ・リンク情報や、所蔵範囲情報などを含めたナレッジベース
- •Articleレベルのデータ





■未来の図書館と未来の目録



未来の図書館とは?



方向1:印刷体の大量デジタル化

方向2: Discovery systemの開発・実装

方向3: Scholars PortalでのE-Book

方向4:場としての図書館の追求

方向5: Faculty liaison





目録は今後どうあるべきか: LCの答申



2008年1月 書誌コントロールの将来ワーキング・グループ (Working Group on the Future of Bibliographic Control)から、"On the Record:Report of The Libraryof Congress Working Group on the Future of Bibliographic Control"が提出される

勧告の内容は5領域に渡る

- ①書誌データ作成及び維持の効率化
- ②貴重/ユニーク資料その他隠された資料のアクセス向上
- ③将来のための図書館の技術の位置づけ
- ④将来のための図書館のコミュニティの位置づけ
- ⑤図書館情報専門職の強化



具体的には



- ・書誌記述の無駄をなくし、効率化を進める
- →貴重・ユニーク資料の組織化
- →統制アクセスポイントの付与 ただし、LCSHなどは事後結合方式へ

問題は、日本の目録では、この部分がそれほど重視されて こなかったために、データが貧弱なこと。むしろコスト上昇も 懸念される。





図書館にとって、資料のメタデータは生命線、サービスの要

全ての資料へのアクセスを確保すること。この必要性は電子資料が増加しても変わるものではない

目録を構成する要素を再構築する必要あり

常に利用者の視点から行動し、そして、学術情報流通を支える一機関として、役割を果たす

